

外国銀行の進出と ASEAN 銀行業への影響：

タイとフィリピンの比較分析

一橋大学大学院経済学研究科 奥田英信
一橋大学大学院経済学研究科博士課程 斎藤 純

Working Paper Series Vol. 2004-33
2004 年 12 月

この Working Paper の内容は著者によるものであり、必ずしも当センターの見解を反映したものではない。なお、一部といえども無断で引用、再録されてはならない。

財団法人 国際東アジア研究センター
ペンシルベニア大学協同研究施設

外国銀行の進出と ASEAN 銀行業への影響： タイとフィリピンの比較分析¹

奥田 英信（一橋大学大学院経済学研究科）
齋藤 純（一橋大学大学院経済学研究科博士課程）

要旨

本稿では、1990 年代以降に大幅な外国銀行の進出が見られたタイとフィリピンについて、外国銀行が地場銀行経営に与えた影響を検討する。1. で先行研究を概観した後、2. と3. でアンケート調査と経営指標の回帰分析を利用してタイの事例を分析する。続いて4. ではタイの分析結果をフィリピンの先行研究と比較する。5. は結論である。

タイのアンケート調査結果によれば、外国銀行の進出と共にタイ銀行市場の競争は高まった。また外資合弁銀行では、大幅な経営方針の見直しが行われ、新規商品や新しい経営手法の導入がより積極的に進められている。一方、地場銀行では、経営方針は従来と同様で、新商品導入なども限定的であった。

経営指標の回帰分析結果から判断すると、タイでは外資比率の上昇は営業費用比率を高め収益率を低下させる効果が見られた。これは外資合弁銀行が、経営近代化、新顧客開拓、新商品導入に努力しており、その結果、短期的には営業費用が上昇し利潤が低下したことを反映している。また、タイでは外資比率の上昇は金利スプレッドを拡大する効果が観察された。これは、外資合弁銀行が新商品導入や経営近代化に積極的に努力し、より収益性の高い資産運用を行っていることを反映している。

フィリピンと比較すると、外資合弁銀行が新商品導入などに強いリーダーシップを発揮していること、に特徴がある。その理由として、タイでは経済の成長性を見込んで外国銀行が積極的に市場への浸透を努力していること、公社債市場の急拡大によって投資銀行業務が急成長したことが関係している。

はじめに：目的と意義

1980 年代末から、途上国への外国銀行の急速な進出が続いている。外国銀行の参入効果については、途上国の金融部門の効率性を高め長期的にも経済発展にプラスの効果を与えるとして肯定的に評価する意見がある。しかしこれとは反対に、外国金融機関に依存した金融システムが長期的には経済発展に対してマイナスの影響を与えるのではないかという懸念も根強く残っている。外国銀行の参入が途上国銀行部門に与える影響については、中欧諸国やラテン

¹ 本稿の2. で利用したアンケート調査の実施に際して、国際協力銀行よりご助力を頂いた。記して謝意を表す。また3. の計量経済分析は、奥田と Suvadee Rungsomboon 氏（一橋大学大学院博士課程）との共同研究に負っている。その内容は、Okuda and Rungsomboon [2004]として2004年度日本金融学会秋期大会で報告の予定である。

アメリカ諸国の事例について論争が続いており、盛んに実証研究が行われてきた。その結果、概ね外国銀行の進出は地場銀行の経営に対して好ましい影響を与えているという結論が得られている(Claessens and Jansen ed. [2000], World Bank [2001])。

ASEAN 諸国は 1990 年代に入っても外国銀行の市場シェアが低かったが、1997 年のアジア危機を契機として外国銀行の市場シェアが急激に高まった。これに伴って外国銀行の参入が銀行部門に与える影響や、長期的な経済成長に及ぼす効果について各国本格的な議論が始まっている(Montgomery [2003])。しかしながら ASEAN 諸国についての本格的な経済研究は Unite and Sullivan [2003]を別とすればなされておらず、その実態解明は遅れている。本稿の目的は、アジア危機によって大きな打撃を受けその後の改革の流れの中で、急激な外国銀行の進出が進んだタイを取上げ、地場銀行の経営が外国銀行の市場参入によってどのように変化したのかを検討することである。具体的には中欧・ラテンアメリカ諸国などの研究で取上げられた論点を整理した上で、タイへの外国銀行進出が銀行部門に如何なる影響を及ぼしつつあるのかを、現地でのヒアリング調査と個別銀行レベルのマイクロデータを用いた計量分析によって明らかにする。更にフィリピンの先行研究を利用して両国の比較を行い、タイの特徴について検討する。

本稿の構成は以下の通りである。まず 1. では、1990 年代以降の途上国への外国銀行の進出を巡る論点について簡単に整理する。2. では、筆者が行ったバンコクでのヒアリング調査を用いて、外国銀行進出による市場環境の変化を地場銀行自身がどう評価しているのか、また新しい市場環境にどう対応しようとしているのかについて説明する。3. では、地場銀行の経営指標として、営業費用比率、収益性比率、預貸金利スプレッドの 3 指標を選び、それぞれについて外国銀行進出が効果について回帰分析を行う。4. では、2. と 3. 得られた我々の検討結果について、フィリピンの先行研究を利用して両国の比較を行う。最後に 5. では、全体の議論を要約し今後の研究課題について言及する。

1. 途上国への外国銀行進出効果

(1) 外国銀行進出のメリットとデメリット²

途上国における外国銀行³の参入が増加するに伴い、その市場成果および経済成果に与える

² 外国銀行進出効果を巡る論点については、Mathieson and Roldos [2001], World Bank [2001], Montgomery [2003] でより詳細に議論している。奥田[2004]ではアジア研究の視点からの議論を整理している。

³ 本稿では、経営決定権を外国資本が確保している銀行を外国銀行の定義する。ただし、資本所有比率がどの程度であれば経営権が確保されるのかは、一概には言えない。途上国における外国銀行には、先進国を母国とする銀行と、近隣途上国を母国とするものとあるが、本稿では前者

影響の是非が重要な政策課題となってきた。外国銀行の進出がもたらす途上国へのメリットとデメリットについて、Levine [1997]は以下のように整理している⁴。外国銀行の進出のメリットとしては次の3つの理由が一般に良く指摘されているという。第1は、外国銀行が進出することによって国際金融市場へのリンケージが強化され、海外資金の流入が拡大し投資が促進されることである。第2は、外国銀行の進出が国内の市場競争を促進し、新しいスキルや経営技術が導入されることである。この結果、銀行の提供する金融サービスの質が改善され同時にサービスが利用し易くなるというメリットが生まれると考えられる。第3は、外国銀行の参入が国内の金融取引をより高度なものにさせ国際的な取引も活発化させることを通じて、国内の金融政策が改善され法制度や金融監督・規制といった制度インフラがレベルアップを促されるという効果である。

一方、外国銀行進出によるデメリットとして指摘される問題として、Levine は次の様なものを指摘している。第1は、外国銀行が参入し、海外市場とのリンケージが強まる結果、海外への資金流失(資本逃避)が悪化するのではないかと懸念である。第2は、外国銀行は富裕層や大企業・外国企業など良質な顧客層しか相手にせず、現地の大衆を相手とするリテール市場にはサービスを提供しないという批判である。第3は、外国銀行が途上国の市場に参入すると、高い技術水準や強い資本力によって市場を支配してしまうという批判である。第4は、外国銀行は長期的な視点から途上国と関係を持つとせず、何らかの問題が進出先もしくは母国で発生した場合、短期間に取引関係を縮小して引き上げてしまうのではないかと懸念されている。第5は、進んだ技術と幅広いサービスを提供する外国銀行が進出すると、受入国の監督・規制の能力が追いつかず、結果として金融システムの安全性が脅かされてしまうという懸念である。

(2) 東欧・ラ米における外国銀行の進出効果の先行研究

外国銀行の参入が地場銀行経営に与える影響については、外国銀行の進出が1980年代から急速に進んだ中欧諸国やラテンアメリカ諸国において研究がされてきた。その成果は、前節で述べて世銀のシナリオの設定に利用されている。これらの研究では、地場銀行の経営を表す幾つかの指標を選び、これらの指標が外国銀行の参入によってどう変化したのかが、次の様な回帰式を利用して分析されている。

$$y_i = f_i(\sum x_j, \sum z_k) + \varepsilon$$

に焦点を合わせて議論を進める。

⁴ 他に World Bank [2001]、Clarke et al [2001]も参照。外国銀行と地場銀行との経営上の特徴については Litan et al [2001]が整理している。

ここで被説明変数 y_i は地場銀行の経営の特徴を示す指標で、利鞘、利潤、非金利収入、営業費用、リスクなどが用いられている。説明変数は外国銀行参入を表す諸指標 x_j とその他のコントロール変数 z_k である。外国銀行参入を表す指標としては、全銀行数に占める外国銀行数の比率、銀行総資産に占める外国銀行の比率、銀行別の外国出資比などが用いられている。

代表的な先行研究とその得られた結論は次の通りである。Claessens, et al [2001]は先進及び途上国の合計 80 カ国のクロスセクション分析を行った。その結果によると、外国銀行の進出によって地場銀行の利潤が低下し、同時に、非金利収入および営業費用の低下も観察された。Bhattacharaya et al. [1997] はインドの事例を分析し、地場銀行の経営効率が外国銀行の進出によって改善したという結論を得た。Terrel [1986]は先進 14 カ国を分析し、外国銀行の進出によって地場銀行の預貸金利マージンが低下し、税引前利益および営業費用も低下したことを観察した。Barajas, et al [2000]はコロンビアの地場銀行への影響を検証し、仲介マージン縮小、債権の質の悪化、営業費用の上昇が起こったとしている。Denizer [1999]はトルコについて検証を行い、地場銀行の利潤と営業費用が、外国銀行の進出によって低下したと指摘している。Clarke et al [1999]は経営不振地場銀の買収による外銀の進出効果について検証を行っている。

World Bank [2001]はこれらの研究結果について、(1)外国銀行の進出によって地場銀行の利潤が少なくとも一時的には低下すること、(2)外国銀行の進出によって地場銀行の経営効率が営業経費が低下し改善すること、(3)新しい金融サービスや新技術が外国銀行の進出によって市場にもたらされること、(4)外国銀行の進出は地場銀行の貸出債権を質が劣化させ金融不安定化が生じる可能性があることが明らかになったと要約している⁵。

(3) アジア地域における外国銀行の進出効果の先行研究

アジア地域ではアジア危機まで外国銀行のプレゼンスが限定的であったことから、外国銀行進出効果のフォーマルな計量分析は現在までのところ殆どなされていない。この中で、Unite and Sullivan [2001]はフィリピンの 1990 年代の外国銀行進出効果を分析したこの分野での先駆的な業績である。それによると、World Bank [2001]の指摘したのと基本的には同じ効果が観察されたとしている。その上で更に、地場銀行が財閥に属しているかどうかによって外国銀行進出によって受け

⁵ 従来の研究の分析手法については幾つかの問題点が指摘されてきた。例えば、クロスセクション分析では、各国ごとに異なる制度や歴史的経緯の影響を、外国銀行の参入効果の計測から分離することが難しい。一方、国別の分析では、外国銀行の参入と同時に他の金融改革が同時進行している場合が多く、両者の効果を分離することが難しい。また国別の分析では、外国銀行の参入が長期間にわたって続くため、その期間中に起こった銀行規制や政治経済環境の変化による影響と判別し難い(Unite and Sullivan [2001])。更に、これらの先行研究に共通するのは、外国銀行の参入効果についての明確な理論的分析が十分でない点も改善の余地が残されている。

る影響が異なるという中欧・ラテンアメリカ諸国では見られなかった興味深い事実を指摘している⁶。

アジア危機後に外国銀行の進出が進んだタイについても先駆的研究が表れている。Chantapong [2001, 2003]は地場銀行と外国銀行について収益性、営業経費、貸出債権の質、およびタイ経済への関与度についての計量分析を行い、外国銀行は地場銀行よりも収益性が高いこと、地場銀行も外国銀行もアジア危機後に収益性を高めていること、地場銀行と外国銀行との収益性の差はアジア危機後に縮小する傾向にあることを観察されたとしている。また Intarachote [2002]はアジア危機後のタイの商業銀行の経営効率を分析して、外国銀行の経営権を取得した銀行が最も急速に業績が回復しており、外国銀行の参加がポジティブな効果を与えていると述べている。

2. タイにおける外国銀行進出と地場銀行の対応

外国銀行の進出が地場銀行の経営に与える影響を分析するために、一般には計量経済分析を行うのが一般的である。しかしながら、現実の世界の実態についての十分な知識を欠いたままで機械的に計量経済分析を行っても、分析結果を適切に解釈することはできない。特に、ASEAN諸国のように外国銀行進出が本格化してから日が浅く、その実態が当事者以外には知られていないために、既存の文献資料からは殆ど情報が得られない。このような場合には、市場の当事者である地場銀行自身にヒアリング調査を行い、かれらが事態をどう判断しているか知ることが重要となる。言うまでもヒアリングの調査結果は、当事者の主観的な判断を反映するものに他ならない。しかしながら、文献調査が極めて限定的な状況下では、フォーマルな計量経済分析の結果を適切に理解するためには不可欠の情報であるといえる。本節では次節で計量経済分析を行う前段階として、タイにおける外国銀行の進出の状況を、筆者が現地調査で行ったアンケート結果を利用して検討する。

(1) タイにおける外国銀行の進出

タイ国内(オフショア市場は含まない)で営業している銀行は、タイ国内法人銀行(Banks Incorporated in Thailand)と海外法人銀行(Banks Incorporated Abroad)とに分類されている。本稿の分析では、さらに以下の3つのカテゴリーに分類することとする。まず、**実**国内法人銀行銀行を政府出資の有無を基準として民間銀行(Private Banks)と政府銀行(State-Owned Banks)とに分類する。その上で民間銀行を外国人出資比率が50%以上かどうかを基準として国内民間銀行と外資買収銀行(hybrid Banks)に分類する。2002年度末におけるこれらの銀行分類は(表2-1)の通りである。

⁶ 地場銀行の中でも利潤その理由として外国銀行と共同する金融サービスや顧客層の内容が、

(表2-1) タイにおける銀行営業形態

銀行名	総資産	
	万バーツ	(シェア%)
タイ国内銀行	5666.6	100.0%
地場銀行:		85.3%
Bangkok Bank Public Co., Ltd.	1249.0	22.0%
Kasikorn Thai Bank Co., Ltd.	774.4	13.7%
Siam Commercial Bank Public Co., Ltd.	716.0	12.6%
Bank of Ayudaya	438.6	7.7%
Thai Military Bank (Questionnaire)	367.5	6.5%
外資行買収行:		
Bank of Asia (ABN-AMRO)	159.4	2.8%
DBS Thai Danu Bank Public Co., Ltd.	99.0	1.8%
Standard Chartered Nakhonchorn Bank	69.9	1.2%
UOB Radanasin Bank	54.9	1.0%
国有化銀行:		
Krung Thai Bank Public Co., Ltd.	976.5	17.2%
Siam City Bank	298.9	5.3%
Bank Thai	271.8	4.8%
Bangkok Metropolitan Bank	191.2	3.4%
外国銀行支店	744.9	100.0%

(出所) Bank of Thailand, Annual Report 各年号

タイにおける外国銀行のプレゼンスは、1990年代の金融自由化政策を背景に拡大していった。特に、アジア危機後の金融改革によって、外国銀行の出資規制が時限的に自由化されたことから、現地銀行の買収による進出が進んだ。この状況は、1990年代以降の国内および外国銀行の総資産残高を纏めた(表2-2)から見て取ることができる。

(表2-2) 総資産額 (シェア%)

	1994	1996	1998	2000	2002
国内銀行	93.1	91.5	80.7	87.8	89.4
民間地場銀行			59.0	55.6	55.4
政府系銀行			16.9	26.3	28.2
外資買収銀行	0.0	0.0	4.8	5.9	5.8
外国銀行支店	6.9	8.5	19.3	12.2	10.6
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) Bank of Thailand, Annual Report 各年号

(注) 政府系銀行にはアジア危機後は国有化銀行を含む。

(表2-3)(表2-4)は、1990年代以降の国内および外国銀行の営業について、行員数、店舗数の変化を纏めたものである。これらの表から、タイにおける近年の国内銀行および外国銀行の行動について、以下の様な傾向を見ることができる。

財閥系銀行と独立系銀行とでは異なっていることを挙げている。

(表2-3) 行員数 (シェア%)

	1994	1996	1998	2001	2002
国内銀行	97.4	97.4	96.1	95.9	95.5
民間地場銀行	68.9	68.8	58.1	60.6	60.6
政府銀行	22.6	22.3	26.7	27.6	26.4
外資買収銀行	5.9	6.3	7.4	7.7	8.5
外国銀行支店	2.6	2.6	3.9	4.1	4.5
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(総人数)	121,774	127,433	119,334	91,857	87,156

(出所)と(注) (表2-2)に同じ。

(表2-4) 店舗・事業所数 (シェア%)

	1994	1996	1998	2001	2002
国内銀行	93.1	91.5	80.7	87.8	89.4
バンコク	28.3	28.1	28.8	31.7	32.3
(外資買収行)	3.2	3.3	4.2	4.2	
地方	71.7	71.9	71.2	67.8	67.2
(外資買収行)	2.9	3.2	4.3	3.5	
外国銀行支店	6.9	8.5	19.3	12.2	10.6
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(総店舗数)	2,838	3,153	3,260	3,701	3,668

(出所)と(注) (表2-2)に同じ。

これらの統計から、次のことが指摘できる。まず第1に、危機前から外国銀行および外資系銀行の活動が増加し市場シェアも増加していた。危機後に金融改革の一環として経営不振から国有化されていた銀行が外資銀行に売却され、相当数の店舗を持つ外資買収銀行が生まれ、市場におけるシェアも急激に増加した。

次に、アジア危機前後で銀行の行動には大きな変化が生じたことが分かる。危機前には好調な経済を背景として銀行の融資規模が拡大した。また、危機前は融資の増加に対応するように、店舗数や行員数も増加した。アジア危機によって銀行融資・資産額は急減した。危機後に経済は比較的急速に回復したが、銀行の融資規模はそれ程増加しなかった。危機後に店舗数と行員数は大幅に低下した。

アジア危機による変化は、店舗配置にも表れた。店舗の配置は、危機前には地方で伸びがバンコクを上回ったが、危機後には地方支店の閉鎖が急速に進み、店舗はバンコク中心に再配置されることとなった。また、店舗の再配置は、地場銀行よりも外資買収銀行でより顕著であった。外資買収銀行は、買収行が保有していた地方店舗を閉鎖して、バンコクに支店を集中させた。

外国銀行支店と地場銀行とでは、営業行動に大きな違いがある。このことは、タイの銀行の資産と負債の構成を纏めた(表2-5)(表2-6)から明白に見ることができる。

(表2-5) 資産の内訳 (シェア%)

	1994	1996	1998	2001	2002
国内銀行	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
現金	4.9	3.8	1.0	1.2	1.4
短期金融市場	3.4	2.6	8.0	22.3	8.9
貸付金	80.1	81.0	71.4	52.7	63.7
外国銀行支店	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
現金	2.4	0.7	0.1	0.1	0.1
短期金融市場	10.2	10.2	10.3	17.5	11.7
貸付金	79.6	79.9	71.4	58.2	59.6

(出所)と(注) (表2-2)に同じ。

(表2-6) 負債と資本の内訳 (シェア%)

	1994	1996	1998	2001	2002
国内銀行	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
預金	75.6	74.8	78.8	84.7	85.0
短期金融市場	2.8	3.2	10.6	3.2	2.5
借入金	9.4	9.0	2.5	4.3	4.1
資本金	2.0	2.3	5.5	6.1	5.4
準備金・利潤	4.2	5.2	4.7	-2.6	-0.7
外国銀行支店	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
預金	18.9	15.1	20.8	35.0	39.8
短期金融市場	16.6	12.8	22.9	16.7	12.8
借入金	40.5	29.0	1.0	0.1	0.2
資本金	5.7	5.9	13.3	10.8	11.7
準備金・利潤	13.5	31.6	39.2	29.4	28.06

(出所)と(注) (表2-2)に同じ。

まず始めに資産の構成についてみると、外国銀行支店と地場銀行との間に基本的な差は見られない。いずれの場合も総資産の最も大きな部分は貸付金であり、その比率はアジア危機後に大きく低下している。

次に、負債と資本金の構成についてみると、外国銀行と地場銀行の間で大きな差が見られる。第1に、国内銀行にとって、総資産に対する預金のシェアは危機前後を通じておよそ8割である。一方、外国銀行にとって、総資産に対する預金のシェアは地場銀行より遥かに小さく、危機後にその水準は大幅に増加したものの、3割程度に過ぎない。第2に、地場銀行にとって、総資産に占める短期金融市場からの借入金のシェアは数%に過ぎないが、外国銀行にとって、そのシェアは10数%と高い。第3に、総資産に対する資本金の比率をみると、地場銀行は数%の水準である。これに対して、外国銀行の水準は常に地場銀行を上回っており、地場銀行の2倍以上となっている。また、総資産に対する準備金・利潤のシェアについても、外国銀行は地場銀行を大幅に上回っており、その水準は危機後に30%に高まっている。

(2) 地場銀行への影響と地場銀行の対応策:ヒアリング調査の分析

(表2-7)はバンコクで行った国内銀行へのヒアリング調査について纏めたものである。調査では個別に銀行を訪問し同一の質問票を利用して行い、面談形式で行った⁷。聴き取り調査を行った銀行は、タイの現在の主要な地場および外資系銀行のほぼ全てをカバーしている。因みに地場銀行全体の総資産に占める聴き取り先銀行の総資産のシェアは 85.3%である。また、カテゴリー別にみたカバー比率は、国内民間銀行では 100%、外資買収銀行では 81.8%、政府系銀行では 44.0%である。

(表2-7) ヒアリング調査先のリスト

銀行名	ヒアリング実施日	総資産	
		百万バーツ	(シェア%)
タイ国内銀行		5666.6	100.0%
地場銀行:			
Bangkok Bank Public Co., Ltd.	2003年10月13日	1249.0	22.0%
Kasikorn Thai Bank Co., Ltd.	2003年10月13日	774.4	13.7%
Siam Commercial Bank Public Co., Ltd.	2003年10月15日	716.0	12.6%
Bank of Ayudaya	2003年12月11日	438.6	7.7%
Thai Military Bank *	2003年12月10日	367.5	6.5%
外資買収行:			
Bank of Asia (ABN-AMRO)	2003年10月14日	159.4	2.8%
DBS Thai Danu Bank Public Co., Ltd.	2003年10月13日	99.0	1.8%
Standard Chartered Nakhonchorn Bank	2004年1月29日	69.9	1.2%
UOB Radanasin Bank	2003年12月8日	54.9	1.0%
政府系銀行**:			
Krung Thai Bank Public Co., Ltd.	2003年10月15日	976.5	17.2%
Siam City Bank	2004年1月28日	298.9	5.3%
Bank Thai	回答なし	271.8	4.8%
Bangkok Metropolitan Bank***		191.2	3.4%

(注) *アンケート調査票のみ回収。**国有化銀行を含む。***2004年2月に Siam City Bank と合併。

① 競争環境の変化

中欧諸国やラテンアメリカ諸国の先行研究では、外国銀行が参入すると、地場銀行市場の競争が高まることが強調されてきた。アジア危機後にタイでは地場銀行買収によって外国銀行がリテイル市場にまで参入し、市場シェアもそれ以前と比較して大幅に高まった。このような変化が果たして市場の競争にどのような影響を与えたかは重要な検討課題である。この点について、最近の市

⁷ 現地調査は ESCEAD 公募プロジェクト委託研究費を利用した。質問票(questionnaires)は付録を参照。

場の競争環境についての質問へのアンケート回答数を基に、競争状態への評価に応じてウエイト付けをして回答を点数化したのが(表2-8)である⁸。

(表2-8). 市場競争度と競争相手に関する認識

市場と業務	市場競争度の評価		地場銀行にとっての主要な競争相手			買収行にとっての主要な競争相手		
	地場銀行の評価	買収銀行の評価	外国銀行	買収銀行	地場銀行	外国銀行	買収銀行	地場銀行
ホールセール市場	3.7	3.7	2.3	3.3	3.8	3.3	3.7	3.3
貸出	3.5	3.3	2.0	2.7	3.4	3.3	3.7	3.3
預金	1.3	2.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0
外国為替	2.7	2.7	2.8	2.8	2.5	2.7	2.7	2.0
信託	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
投資銀行	2.0	2.7	1.8	2.2	2.3	2.3	2.7	2.7
短期金融取引	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
リテール市場	4.0	2.7	2.7	3.8	4.0	2.0	2.7	2.7
貸出	3.7	3.0	1.7	3.6	3.6	2.3	3.3	3.3
預金	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3	1.3
外国為替	1.5	1.3	1.4	1.4	1.4	1.0	1.3	1.0
信託	1.3	1.0	1.2	1.4	1.4	1.0	1.0	1.0
投資銀行	1.3	1.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.7	1.7
短期金融取引	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

(表2-8)からは以下の興味深い特徴が読み取れる。市場競争全般について民間地場銀行の評価を見ると、リテール市場とホールセール市場の双方で非常に競争度が高い(競争度4.0と3.7)と判断している。一方、外資買収銀行の評価を見ると、ホールセール市場は民間地場銀行と同等に非常に競争的である(競争度3.7)としているが、リテール市場の競争度は2.7と競争的であるとは見ていない。

民間地場銀行にとって市場における主要な競争相手を見ると、ホールセール市場では同じ民間地場銀行が最も重要な競争相手(競争度3.8)であると考えている。また外資買収銀行に対しても競争的である(競争度3.3)と評価しているが、外国銀行支店に対しては競争的ではない(競争度2.3)としている。一方、リテール市場における民間地場銀行の競争相手の評価を見ると、同じ民間地場銀行が最も競争的(競争度4.0)で外資買収銀行もほぼ同程度に厳しい競争相手(競争度3.8)と判断している。一方、外資買収銀行にとっては、ホールセール市場の競争相手としては、同じ外資買収銀行が最も厳しい(競争度3.7)。しかし同時に、民間地場銀行と外国銀行支店との競争も厳しい(競争度3.3と3.3)ものとなっている。

⁸ 付録1. Questionnaires の Question 1, 2, 3 への回答数から計算。回答数については付録2. の(補表1)を参照されたい。(表2-8)は(補表1)の回答数を加重平均して計算した。各回答へのウエイトは、(1) HC=4, C=3, Little LC=2, NC=1, (2) HS=4, VS=3, FS=2, NS=1、である。

ホールセール市場において民間地場銀行が競争が厳しいと評価している分野は、融資・貸付（競争度 3.5）と外国為替関連業務（競争度 2.7）であり、リテール市場では、融資・貸付（競争度 3.7）以外は競争的ではないと判断している。ホールセール市場において外資買収銀行が競争的であると評価している分野は、融資・貸付（競争度 3.3）、外国為替関連業務（競争度 2.7）、投資銀行業務（競争度 2.7）である。リテール市場では、民間地場銀行と同じく、融資・貸付（競争度 3.0）以外は競争的ではないと判断している。

民間地場銀行がホールセール市場で競争的分野での競争相手をどう考えているか見ると、融資・貸付については同じ民間地場銀行が最も競争的な相手（競争度 3.4）であり、続いて外資買収銀行との競争が厳しい（競争度 2.7）と判断している。しかし、外国銀行支店との競争はそれ程厳しくない（競争度 2.0）と考えている。民間地場銀行にとって、リテール市場も状況は同じであり、融資・貸付では民間地場銀行と外資買収銀行との競争が厳しく（競争度 3.6 と 3.6）、外国銀行支店とは競争的ではない（競争度 1.7）。

外資買収銀行にとってもホールセール市場の融資・貸付は競争的であるが、主要な競争相手は同じ外資買収銀行（競争度 3.7）である。同時に民間地場銀行と外国銀行支店も厳しい競争相手（競争度 3.3 と 3.3）である。外資系銀行にとってリテール市場の融資・貸付は、同じ外資買収銀行と民間地場銀行との競争が厳しく（競争度 3.3 と 3.3）、外国銀行支店とはそれ程競争的ではない（競争度 2.3）と判断されている。

外国銀行の市場プレゼンスの増加は、タイ銀行市場に競争促進的な効果をもたらしたといえる。しかし、市場競争の最も激しいのは、民間地場銀行同士あるいは外資買収銀行同士の競争であり、両者の競合は決して低くはないが極めて競合的であるとまでは言えない。また、競争が厳しくなった分野は、主として融資・貸付の分野であり、その他の殆どの分野では競争は限定的である。外国銀行の浸透は、幾つかの限定的な分野で競争を激しくさせたが、一方で両者はある程度住み分けによる補完関係を形成しているといえる。

② 地場銀行の対応行動

先行研究や World Bank[2001]の論点の1つは、外国銀行の進出によって地場銀行がどのような活動に影響を受け、それにどの様に対応していくかという点である。（表2-9）は、タイにおいて地場銀行がどのような活動分野で大きな影響を受けていると判断しているかについての回答を纏めたものである⁹。

⁹ 付録 1. Questionnaires の Question 4 への回答数から作成。

(表 2 - 9) 競争環境の変化によって重大な影響を受けた要素 (回答数)

	地場銀行		国有化銀行		外資買収行	
	重大	重大でない	重大	重大でない	重大	重大でない
支店網	2	2	1	0	2	1
資金調達	0	4	0	1	1	2
新規顧客の獲得	3	2	1	0	2	1
従業員の確保	2	2	0	0	1	2
技術の変化	3	1	1	0	1	2
資本金の増強	3	1	0	0	1	2

(表2-9)のアンケートの回答から、以下が示唆される。市場競争に対応して影響が生じていると民間地場銀行が考えている項目としては、新しい顧客層の開拓、技術の改善、資本の強化の回答数が多い(5行中3行)。その一方で、資金調達については、影響を受けていないと判断している。また、支店網の配置、優秀な行員の雇用については、競争による影響の判断が別れる結果となった。

外資買収銀行が市場競争によって影響を受けていると判断している項目としては、支店網の再編と新規顧客獲得の回答数が比較的多かった。しかし、資金調達、優秀な行員の確保、技術の改善、資本の強化については、影響が無いという判断が上回っている。

以上のように、資金調達については、民間地場銀行と外資買収銀行の双方が影響を受けていないと判断している。アジア危機以来、タイでは銀行の融資が低迷していることもあり資金はだぶつき気味で、タイでは外国銀行進出後も資金調達面で銀行間で競争がおきるような状況にはなっていない。ただし、幅広い支店網を持つ民間地場銀行は全ての銀行が資金調達面での影響を受けていないという回答をしているのに対して、店舗網がバンコクに限定的な外資買収銀行では、資金調達に苦労していると回答した銀行もあった。

その一方で、外国銀行参入後に、融資面では銀行間の競争が厳しくなっており、新規の顧客の獲得を巡っては競争が起こっていると考えられる。市場競争が厳しくなる中で、技術の改善と資本の強化は競争力強化の重要な要素であるが、この面では外資買収銀行は一日の長がある。従って、民間地場銀行が外資系銀行にキャッチアップするために努力しているのに対して、外資買収銀行は比較的余裕のある対応をしているものと思われる。

市場競争の変化に対応して、銀行がどのように対応した戦略をとりつつあるのかを纏めたのが(表2-10)である¹⁰。この回答結果から以下の点が指摘できる。民間地場銀行は、競争的な市場環境に対応する方法として、リストアップされたほぼ全ての措置を既に実施している。新規顧客・市場の開拓(回答数 3)、価格の見直し(回答数 4)、新商品の導入(回答数 3)、広告活動の活発化

¹⁰ 付録 1. Questionnaires の Question 6 への回答数から作成。

(回答数 2)といった戦略は、競争的市場への一般的な対応策と考えられている。また、リエンジニアリング(回答数5)、マンパワー政策の見直し(回答数4)、人材のヘッドハント(回答数4)などの手段も殆どの民間地場銀行で実施されている。その一方で、銀行の基本的経営方針の見直し(回答数 2)、戦略的提携(回答数 2)、合併統合(回答数 1)、といった根本的な事業見直しを行っている民間地場銀行は多くない。

(表 2-10) 銀行が重要であると判断している対応策 (回答数)

	地場銀行		国有化銀行		外資買収銀行	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
基本的な経営方針の転換	2	2	1	0	3	0
新技術への投資	3	1	1	0	1	2
新市場・顧客の開拓	3	1	1	0	3	0
新商品の導入	4	0	1	0	2	1
価格も見直し(金利等)	3	0	1	0	2	1
コンサルタントの利用	2	1	1	0	1	2
銀行支店網の拡大	2	1	1	0	1	2
業務・組織のリエンジニアリング	5	0	1	0	3	0
雇用政策の見直し	4	0	1	0	1	2
他行の商品模倣・人材引抜	4	0	0	1	2	1
ISO 認証の取得	0	4	0	1	1	2
戦略的提携先	2	3	0	1	3	0
宣伝活動の拡大	2	0	1	0	3	0
資本金の増強	2	2	1	0	2	1
合併・統合の推進	1	2	0	1	2	1

(注) はい＝重要であり実施している。いいえ＝重要ではなく実施していない。

一方、外資買収銀行の対応は、基本的経営方針の見直し(回答数 3)、戦略的提携(回答数 3)、合併統合(回答数 2)、といった根本的な事根本的な経営方針の見直しなど本質的な経営転換を含むものとなっている。

以上の結果を見ると、外国銀行のプレゼンスの増加が市場競争を高めた結果、民間地場銀行は競合する領域での競争力の強化政策を実施していると判断される。その内容は広範囲であり、大幅な業務プロセスの見直しや積極的な投資活動などが含まれている。外国銀行の進出は、民間地場銀行に外国銀行にキャッチアップして対等の立場で競争しようという強い誘因を生み出し、銀行近代化に大きなインパクトを与えたといえる。ただし、注意すべきことは、外国銀行との競合は民間地場銀行にとって経営方針を根本的に見直さなければならないような「銀行経営戦略問題(banking problem)」とは考えられてはいない。むしろ、民間銀行の反応は、基本的な経営構造は維持したまま特定分野の競争力の強化を図る「マーケティング問題(marketing problem)」タイプの対応であると考えることができよう。

逆に、地場銀行を買収して進出した外資買収銀行は、営業方針を大きく見直し、生まれ変

わった新たな銀行として市場競争に対応しているといえる。この意味で外資買収銀行の行動は、「銀行経営戦略問題」タイプの対応であると考えることができる。

③ 外国銀行参入に関する一般的な評価

(表2-11)は外国銀行参入に関する全般的な評価を纏めたものである。これによると、地場銀行も外資系銀行も、外国銀行のプレゼンスの拡大が市場の競争を高め、同時にタイ銀行部門のレベルアップに貢献するところがあったと評価している。ただし、外国銀行の行動に対しては依然として規制が残り、市場競争の拡大に制約となっていると考えられている。特に規制の透明化と、外国銀行の店舗規制の撤廃を進めることが重要であるという回答が多かった。

(表2-11) 外国銀行進出の効果に関する一般的な評価

	地場銀行		外銀買収行	
	はい	いいえ	はい	いいえ
効率的な銀行部門を形成する上で、外国銀行の数は現在の水準で十分だと思いますか？	3	1	3	0
効率的な銀行部門を形成する上で、外国銀行の新規参入が満足すべき効果を挙げていますか？	2	2	3	0
他の事情が変わらないとして、貴方の銀行は外国銀行と合併した方が良いと思いますか？	0	4	0	0

(3) ヒアリング調査結果の要約

アジア危機後の金融改革の一環として、タイでは地場銀行の外国銀行による買収が進み、市場における外国銀国のプレゼンスは大幅に高まった。外国銀行の資産規模が大きくなっただけでなく、従来のホールセール市場だけではなくリテール市場にも外国銀行の進出が進んだ。このような変化は市場競争を高める効果を果たし、同時に銀行の経営行動にも影響を与えて新商品の開拓、業務のリエンジニアリング、リスク管理の改善など多用な変化が観察されるようになった。

外国銀行の進出による市場競争の高まりは、地場銀行と外資買収銀行、外国銀行の全面的な競合をもたらした訳ではない。確かに、外国銀行のリテール市場への参入、地場銀行の技術レベルの改善、などによって、貸付市場や消費者金融市場において極めて厳し競争が生み出されることとなった。しかし異なったカテゴリーの銀行は業態に大きな差があり、互いに競合する領域はある程度限定的である。市場競争が最も厳しくなったのは、同じカテゴリーの銀行同士の競合関係であると思われる。外国銀行に対する規制は店舗規制に代表されるように依然として厳しく、地場銀行との全面的な競合には至っていないといえよう。

アジア危機後のタイ銀行部門の競争を考える場合、外国銀行参入の影響と並んで、債券市場

の発達の影響に注目する必要がある。民間地場銀行の融資・貸付業務にとって、企業の債券市場での資金調達に重大な影響を与えるようになっている。銀行は債券市場と競争すると同時に、債券発行関連業務に進出しており、債券市場をも業務に取り込んで企業との関係の維持を図ろうとしている。債券市場関連業務は銀行にとって手数料収入を拡大する上で大切であり、今後さらに拡大する可能性を持っている。

外国銀行参入がタイの銀行部門全体の機能に与えた影響を考える上では、銀行経営効率の変化、提供されるサービスの良と質の変化、サービスを提供される顧客の変化、が大切である。経営効率の変化については、大幅なリストラを実施しているものの、リスク管理の厳格化により経費の増加も起こっていることから、現在の時点で必ずしも経費削減効果が実現しているとは判断し難い。銀行の提供するサービスについては、融資目的別の内訳、満期構成は危機前と大きくは変化していない。しかし消費者金融などの分野では新商品が登場しており、手数料業務による割合も拡大しており、変化の萌芽は見えてきている。最後に、市場競争の拡大により、ミドルマーケットの比重が高まってきており、この点において銀行のサービスを享受できる顧客は拡大してきているといえる。

3. タイにおける外国銀行進出効果の計量分析¹¹

外国銀行進出が地場銀行に与える影響は複数の経路を同時に辿って複合的に作用する。本節では、これらの複合的な影響を有効に捉えるために、地場銀行の営業経費率、収益率、預貸金利スプレッドに外国銀行進出が与えた影響の推計を行う。以下ではまず始めに、外国銀行進出が地場銀行経営に影響を与える波及経路について整理しておこう。

(1) 外国銀行の進出効果の波及経路

① 市場集中度の変化と外国銀行進出効果

外国銀行進出効果の主要な経路としては第1に、外国銀行の進出によって市場構造に変化が表れその結果として地場銀行の経営に影響が及ぶという場合が考えられる。市場構造が銀行の経営パフォーマンスに与える影響についての最も古典的な仮説としては、市場構造仮説 (structure-conduct-performance (SCP) paradigm) がある¹²。それによれば、市場集中度が低いほど市場が競争的であると考え、市場集中度が低くなるほど銀行の利潤率が低下し経営効率は高まると想定する。この仮説に従うならば、外国銀行進出によって市場の競争が強まるならば、市場集中

¹¹ 本節の分析は Okuda and Rungsomboon [2004] に負っている。

¹² 銀行部門における市場構造と市場成果の関係については筒井[2000]のサーベイを参照した。市場構造仮説と効率性仮説を利用した銀行部門の比較的新しい研究としては、スペイン銀行市場に関する Loyd-Williams, Molyneux, and Thornton[1994]を参照されたい。

度の低下すると同時に地場銀行の経営効率が改善すると予想されることになる。一方、市場競争仮説では、競争が厳しくなり市場集中度が低下すると、銀行の利潤率は低下すると考えられている。従って、外国銀行進出によって市場集中度が低下すると、利潤率が低下すると予想される。

市場構造仮説に対して、利潤率の高さは銀行個別の経営効率性の反映であると考えるのが、効率性仮説 (efficiency hypothesis) である。効率性仮説では、効率性の高い銀行が市場で生き残り市場集中度が高くなると同時にこれらの銀行は利潤率が高くなると考える。この説に従うならば、外国銀行進出によって市場競争が高まり、地場銀行の中に経営効率が改善するところが出てくると、それらの銀行は市場シェアを拡大することになり市場集中度が以前よりも高まると予想される。従って、外国銀行進出によって市場競争が厳しくなるならば、市場集中度と利潤率との間に正の相関が観察され、同時に市場集中度と銀行営業経費との間に負の相関が観察されると予想される。

効率性仮説とは別に、コンテストブル市場仮説 (contestable market hypothesis) も、市場競争の程度は市場集中度だけでは説明できず、従って市場集中度と銀行の利潤率や経営効率との相関関係から市場競争の影響を把握することはできないとした。それによれば、市場競争の程度は新規参入の容易さによって規定される。新規参入が容易な市場では、たとえ市場参加者が少なく市場集中度が高くても、超過利潤は発生しないとしている。この説に従えば、外国銀行進出によって市場が競争的になったとしてもその変化は市場集中度の変化には反映されず、外国銀行進出効果は市場集中度と利潤率との相関あるいは市場集中度と経営効率との相関としては観察されないことになる。

②管理・技術の直接的な移転効果

外国銀行の進出が地場銀行の経営に影響を与える第2の経路としては、外国銀行が従来は地場銀行の持っていなかった何らかの新技术を持ち込むことによって、地場銀行の経営が変わることが考えられる。外国銀行が持ち込む技術としては経営管理技術や新金融商品があり、その効果としては、営業経費の削減、収益力の強化、リスク管理の改善といった効果が期待される。もしもこのような効果が実現されるなら、市場全体の集中度が変化しなくとも、外国銀行の影響力が高まれば、地場銀行経営指標に変化が観察されるはずである。

市場集中度の変化を経由せずに外国銀行の影響力の増加が地場銀行経営に直接作用する具体的な状況としては、外国資本が地場銀行に資本参加して経営に加わる場合が考えられる。外国資本が地場銀行の経営権を握った場合、あるいは経営に大きな影響を持つ様になった場合には、従来の地場銀行の経営は質的に変化せざるを得ない。実際にも、アジア危機後の金融機関救済や金融改革の流れのなかで、東南アジア各国で外国資本が地場銀行を買収する事例が多く見られており、これによって地場銀行の経営改善することが一般に期待されている。市場全体の集

中度が変化しなくても、外国銀行の市場シェアが高まることで地場銀行の経営に影響が生じる可能性もある。市場における主要な競争相手が地場銀行から外国銀行に変わること、地場銀行が新技術や新商品の導入などに動かざるを得ない状況が起こると考えられているからである¹³。前節で説明した筆者のヒアリング調査で明らかになった様に、タイではアジア危機後に地場銀行による積極的な新商品導入や経営近代化の動きが見られている。これらの経路を通じた外国銀行進出効果は、個別銀行毎の外資出資比率の変化や市場に占める外国銀行シェアの変化が、地場銀行の営業経費率や収益率に与える影響を推計することで検証することができる。

ただし、これらの外国銀行の影響力の拡大が地場銀行の経営に与える影響は、単純なものではないことに注意が必要である。外国銀行による新商品導入は、銀行の収益力を改善し利潤率を高める効果を持つ。しかし新商品の導入には人材の新規雇用や再訓練が必要であり、設備投資や経営組織の改変も伴うため、追加的な費用が発生する。従って少なくとも短期的には、新商品の導入が利潤を増加させるかどうか確定できない。新経営技術の導入についても同様であり、長期的には営業費用を改善し利潤を拡大するとしても、短期的には費用の増加と利潤の低下をもたらすかもしれない。先進的なリスク管理の導入についても、長期的には安定的な経営に役立つとしても、短期的には費用増加と利潤低下が発生する可能性がある。

③外国銀行と地場銀行との競合と補完

外国銀行進出が地場銀行の経営に与える影響は、市場競争の高まりによる間接的な影響であれ、外国銀行による新商品導入や経営近代化による直接的な影響であれ、地場銀行と外国銀行とがどれだけ競合しているかに依存する。もし、地場銀行と外国銀行とが互いに顧客を差別化し市場で住み分ける戦略を採用するなら、競合関係は微弱であり外銀進出効果は限定的になる。逆に、両者がより多くの分野で競合する戦略を取るなら、競争関係は厳しいものとなる。

両者の競合関係を測る指標として、貸出市場および預金調達市場での競合・住み分けを考えることができる。もし両者が似通った顧客について競合しているなら、貸出および預金金利はほぼ同一となり、預貸金利スプレッドはほぼゼロとなるであろう。逆に、両者が互いに住み分けをしている場合には、貸出と預金金利には乖離が生じ、預貸金利スプレッドも相当な差が観察されるであろう。地場銀行の預貸金利スプレッドが、外国銀行のプレゼンスの変化と感応的であるかどうかを観察することで、地場銀行と外国銀行との競合関係を検証することができる。

¹³ 例えば World Bank [2001]を参照されたい。

④金融改革による影響との関係

外国銀行の進出は多くの場合、途上国の金融改革特に自由化政策が進展するなかで発生する。このため、外国銀行進出の効果とその他の金融改革による影響とが重なり合っ地場銀行に影響を与える。外国銀行の進出効果を計測する際には、金融制度改革による市場環境の変化を何らかの形でコントロールしておかないと、進出効果が過大に評価されてしまう恐れがある。タイにおいても、アジア危機後の金融改革の流れの中で、外国銀行の市場プレゼンスは大幅に拡大した。そこで、金融改革による影響を外国銀行進出効果から分離するために、アジア危機後の時期については金融改革ダミー変数を回帰式に挿入することにする。

(2) 推計式

外国銀行進出がタイ地場銀行の経営にどのような影響を与えてきたのかを検証するために、我々は、営業費用比率(overhead expenses ratio)、利潤率(bank profitability)、預貸金利スプレッド(interest rate spread)の3つの経営指標に注目する。これらの指標に対して、外国銀行進出が上記のどの経路を通じて影響が生じたのかを、次のような推計式を用いて回帰分析を行う。

①営業費用比率

営業費用への外国銀行参入効果の推計方法は、通常のコスト関数を設定した上で、外国銀行の参入効果を表す追加的な説明変数を追加し、その統計的な有意性をチェックするのが一般的である。そこでまず第 t 期における第 i 地場銀行の営業経費関数を以下の様に設定し、外国銀行の存在がどのように経費に影響を与えるかを推計する。

$$(1) \quad OE_{it} = \beta_0 + \beta_1 \log(LOAN)_{it} + \beta_2 WAGE_{it} + \beta_3 K_{it} + \beta_4 HI_t + \beta_5 CRISIS \\ + \beta_6 DUMC + \beta_7 FOWN_{it} + \beta_8 FOR\%_t + \beta_9 FOR\#_t + \varepsilon_{it}$$

推計式において、 OE_{it} = 営業経费率 = (地場銀行の営業経費) / (総資産額)、 β_0 = 定数項(固定費用)、 $LOAN_{it}$ = 地場銀行の貸出残高、 $WAGE_{it}$ = 地場銀行の実質賃金 = (人件費) / (行員数)、 K_{it} = 資本レンタル率 = (物件費) / (固定資本額実質値)、を表す¹⁴。ここでは、1生産物、2生産要素のトランス・ログ型費用関数を想定しており、生産物の係数 β_1 、および要素価格の係数 β_2 、 β_3 は全てプラスになると予想されている。

¹⁴ 尚、生産物として $\log(LOAN)_{it}$ のかわりに $\log(TA)_{it}$ = 総資産残高対数値を用いた場合も計算している。

次に、 HI_t =市場集中度(ハーフィンダール指数)、 $CRISIS$ =アジア危機ダミー(1997-1999年は1、それ以外は0)、 $DUMC$ =金融改革ダミー(1997-2002年は1、それ以外は0)、を表す。これは、地場銀行に影響を与える市場環境の変数であり、係数 β_4 は市場構造仮説が成立するならプラス、効率性仮説が成立するならマイナス(Claessens et al [2001], Berger and Hannan [1998])、コンテスト市場仮説が成立するならゼロが予想される。また係数 β_7 はアジア危機後の経済混乱の影響を表し、その符号はプラスとなることが予想される。金融改革ダミーは、Barajas, Steiner and Salazar [1999]が指摘した外国銀行進出効果と金融改革の効果との混同を避けるために、両者を分離するために挿入されたダミー変数で、その係数 β_6 はアジア危機を契機としたタイの金融改革の影響を表している。

最期に、 $FOR\%_t$ =外国銀行の市場シェア、 $FOR\#_t$ =外国銀行の数、 $FOWN_{it}$ =地場銀行*i*への外国資本の出資比率を表す。これらは、外国銀行の存在の代理変数で、市場シェアと外国銀行数の係数 β_7 、 β_8 は、*t*期において外国銀行が銀行市場でどれだけ大きな存在であるかが、地場銀行全体の経営に与える影響を示している。地場銀行への外資出資比率の係数 β_9 は、外資の経営への関与の大きさが、個別の地場銀行の経営に与える影響を示している。尚、 ε_{it} は攪乱項である。

②利潤率

次に、外国銀行進出が地場銀行の収益性に与える影響を検討するため、第*t*期における第*i*地場銀行の収益率を以下の推計式を利用して検証する。地場銀行の収益性指標として、税引前収益の総資産額に対する比率 $PROFIT_{it} = (\text{税引前収益の総資産額}) / (\text{総資産額})$ を用いる。

$$(2) \quad \begin{aligned} PROFIT_{it} = & \beta_0 + \beta_1 WAGE_{it} + \beta_2 K_{it} + \beta_3 IEX_{it} + \beta_4 SPREAD_{it} + \beta_5 \log(TA)_{it} \\ & + \beta_6 HI_t + \beta_7 CRISIS_t + \beta_8 DUMC_t \\ & + \beta_9 FOWN_{it} + \beta_{10} FOWN_{it} + \beta_{11} FOWN_{it} + \varepsilon_{it} \end{aligned}$$

推計式において、 $WAGE_{it}$ =実質賃金、 K_{it} =資本レンタル率、 IEX_{it} =資金調達金利=(利子支払額)/(総預金残高)、 $SPREAD_{it}$ =預貸金利スプレッド=(金利収入/総貸出残高)-(利子支払額)/(総預金残高)、 $\log(TA)_{it}$ =総資産残高対数値を表す。費用項目にあたる賃金、資本レンタル率資金調達金利は収益率に負の影響を与えると考えられるので、これらの項目の係数 β_1 、 β_2 、 β_3 は全てマイナスになると予想される。また銀行業では一般に規模経済性が存在するといわれ

ることから、係数 β_5 はプラスの符号となることが予想される。

次に HI_t = 市場集中度(ハーフィンダール指数)、 $CRISIS$ = アジア危機ダミー(1997-1999 年は 1、それ以外は 0)、 $DUMC$ = 金融改革ダミー(1997-2002 年は 1、それ以外は 0)、を表す。これらは、地場銀行に影響を与える市場環境の変数であり、係数 β_6 は市場構造仮説が成立するならマイナス、効率性仮説が成立するならプラス(Claessens et al 2001, Berger and Hannan 1998)、コンテストブル仮説が成立するならゼロが予想される。また係数 β_7 はアジア危機後の経済混乱の影響を表し、その符号はマイナスとなることが予想される。係数 β_8 は金融改革の影響を表す。

外国銀行のプレゼンスの変化は、 $FOR\%_t$ = 外国銀行の市場シェア、 $FOR\#_t$ = 外国銀行の数、 $FOWN_{it}$ = 地場銀行への外国資本の出資比率で表される。これらは、の存在の代理変数で、市場シェアと外国銀行数の係数 β_9 、 β_{10} は、 t 期において外国銀行が銀行市場でどれだけ大きな存在であるかが、地場銀行全体の経営に与える影響を示している。地場銀行への外資出資比率の係数 β_{11} は、外資の経営への関与の大きさが、個別の地場銀行の経営に与える影響を示している。

③ 預貸金利スプレッド

第 3 に、外国銀行進出が地場銀行の預貸金利スプレッドに与える影響を、以下の推計式を利用して検証する。被説明変数 $SPREAD_{it}$ = 預貸金利スプレッドは、第 t 期における第 i 地場銀行の預貸金利スプレッドの指標である。は収益率を地場銀行の収益性指標ですでに説明した通り(金利収入/総貸出残高)から(利子支払額)/(総預金残高)を差引いた値である。

$$(3) \quad \begin{aligned} SPREAD_{it} = & \beta_0 + \beta_1 NIA_{it} + \beta_2 FND_{it} + \beta_3 OE_{it} + \beta_4 RSZ_{it} \\ & + \beta_5 INF_t + \beta_6 GDP_t + \beta_7 RR_t + \beta_8 CRISIS_t + \beta_9 DUMC_t \\ & + \beta_{10} FOR\%_t + \beta_{11} FOR\#_t + \beta_{12} FOWN_{it} + \varepsilon_{it} \end{aligned}$$

推計式において、 NIA_{it} = 非金利費用比率 = (営業経費 - 金利支払額) / 総資産残高、実質賃金、 FND_{it} = 金利費用比率 = 総金利支払額 / 総資産残高、 OE_{it} = 営業経費率、 RSZ_{it} = 市場シェア比率 = 地場銀行 i の銀行の総資産残高 / 地場銀行資産総額、を表す。非金利費用比率と金利費用比率、営業経費率は費用項目にあたるので、これらの項目の係数 β_1 、 β_2 、 β_3 は全てプラスになると予想される。また市場シェア比率は銀行の市場への支配力を代理する変数であると考え、市場支配力が大きいほど厚い金利利鞘を確保できるという意味で、係数 β_4 はプラスの符号となると予想される。

次に、 GDP_t =国内総生産額、 $INFL_t$ =物価上昇率、 RR_t =法定預金準備率、 $CRISIS$ =アジア危機ダミー(1997-1999年は1、それ以外は0)、 $DUMC$ =金融改革ダミー(1997-2002年は1、それ以外は0)、は地場銀行に影響を与える市場環境の変数である。法定預金準備率の上昇は預貸比率を低下させ資金調達コストを実質的に高めるので、係数 β_7 はプラスの符号となると予想される。 B_8 と β_9 はとアジア危機の影響と危機後の金融改革の影響をそれぞれ表す。

外国銀行のプレゼンスの変化は、 $FOR\%_t$ =外国銀行の市場シェア、 $FOR\#_t$ =外国銀行の数、 $FOWN_{it}$ =地場銀行への外国資本の出資比率で表される。市場シェアと外国銀行数はタイの銀行部門において外国銀行が市場でどれだけ大きな存在であるかを表し、それらの係数 β_{10} 、 β_{11} は、地場銀行全体の経営に与える影響を示している。地場銀行への外資出資比率の係数 β_{12} は、外資の経営への関与の大きさが、個別の地場銀行の経営に与える影響を示している。Barajas et al [2000], Claessens et al [2001], Unite and Sullivan [2002]によれば、外国銀行のプレゼンスの増加は短期的には金利スプレッドを縮小させるとしており、その場合には係数 β_{10} 、 β_{11} 、 β_{12} は符号がマイナスになる。

(3) 推計結果

①推計方法・期間・データ

推計作業では、1990年から2002年まで13年間について地場商業銀行17行の年次データを利用してパネルデータを作成した。個別銀行の財務データは、タイ証券取引所(Security Exchange of Thailand)が作成した年次データを利用した。また各行の行員数のデータは、バンコク銀行(Bangkok Bank)が作成したCommercial Bank in Thailandを利用した。経費率、収益率、預貸金利スプレッドの3式の推計は、固定効果モデルと変動効果モデルを利用して最小二乗法OLSで行い、いずれが適切かはwhite統計量を用いたHousman検定で判断した。

②費用関数の推計結果

推計結果は(表3-1)に纏められている。まず始めに費用比率関数の基本的な変数である生産物や要素価格の係数値を見ると、係数値は全てプラスで符号条件が満たされており、同時に統計的にも有意な結果が得られている。この意味において、経済学的に意味のある推計されていると判断できる。

(表3-1) 経費率の推計結果

	(1)	(2)	(3)	(4)
<i>log(LOAN)</i>	-0.013*** (0.002)	-0.014*** (0.002)	-0.002 (0.798)	-0.001 (0.769)
<i>log(WAGE)</i>	0.005 (0.326)	0.006 (0.262)	0.009* (0.089)	0.009* (0.092)
<i>K</i>	0.009 (0.14)	0.008 (0.226)	0.007 (0.285)	0.006 (0.301)
<i>log(TA)</i>			-0.031*** (0)	-0.030*** (0)
<i>HI</i>	-0.182** (0.014)	-0.134 (0.209)	-0.322*** (0)	-0.307*** (0.005)
<i>CRISIS</i>				
<i>DUMC</i>		-0.002 (0.524)		-0.0007 (0.837)
<i>FOWN</i>	0.0002** (0.017)	0.0002** (0.015)	0.0002*** (0.006)	0.0002*** (0.006)
サンプル数	135	135	135	135
<i>R</i> ²	0.289	0.285	0.389	0.384

(注1) 括弧内の数値は p-値を示す。

(注2) *, **, *** はそれぞれ 10%、5%、1%の有意水準を示す。

次に市場構造の影響を見ると、ハーフィンダール指数の係数はマイナスであり、市場集中度が高まるほど営業経費比率が低下するという傾向が観察されている。市場集中度と営業経費の関係は市場構造仮説とは逆になっており、効率的な銀行が大きなシェアを持ち市場集中度が高くなるという効率性仮説が妥当していると判断できる。

マクロ経済情勢が営業経費に与えた影響をみると、アジア危機の影響は統計的に有意な水準では観察できない。アジア危機直後の 2-3 年については、金利、貸出額、などが大きく変動しており、全体として経費比率に与えた影響については明確ではないといえよう。アジア危機を契機とした金融改革ダミーの係数の符号は確定しておらず、その統計的な有意性も低い。アジア危機後に銀行を取り巻く経営環境は大きく変わったが、多様な変化が営業経費率に与える総合的な作用については明確ではないといえる。

外国銀行の進出が与える影響について見ると、推計式の選び方によって変化はあるものの、ほぼ一定の傾向が見て取れる。即ち、個別銀行における外資出資比率の係数はプラスの符号を持ち、外国銀行の経営への影響力が高まると営業経費率が増加している。営業経費は増加する傾向が観察される。また、統計的な有意性はないものの、アジア危機後に関しては外資出資比率の増加が営業経費をやや抑制する傾向も伺える。この傾向は、アジア危機による経済環境の変化を考慮して金融改革ダミーを回帰式に挿入しても、基本的には変化しない。

③収益率関数の推計結果

推計結果は(表3-2)に纏められている。収益率関数の基本的な変数である要素価格と金利ス

プレッドの係数値を見ると、係数値は全て予想された符号条件が満たされている。また、資本レンタル比率の係数を除いて、統計的にも有意な結果が得られており、基本的に経済学的に意味のある推計だといえる。

(表3-2) 収益率の推計結果

	(1)	(2)	(3)	(4)
<i>log(WAGE)</i>	-0.036*** (0.006)	-0.038*** (0.004)	-0.033** (0.016)	-0.025*** (0.074)
<i>K</i>	0.012 (0.439)	0.015 (0.342)	0.013 (0.403)	0.014 (0.356)
<i>IEX</i>	-0.631*** (0)	-0.535*** (0)	-0.680*** (0)	-1.131*** (0)
<i>SPREAD</i>	2.552*** (0)	2.531*** (0)	2.361*** (0)	1.997*** (0)
<i>log(TA)</i>	0.059*** (0)	0.061*** (0)	0.062*** (0)	0.062*** (0)
<i>HI</i>	0.653*** (0.001)	0.446 (0.129)	0.3232 (0.307)	0.249 (0.373)
<i>CRISIS</i>		0.011 (0.329)	-0.003 (0.796)	0.030 (0.132)
<i>DUMC</i>			-0.013 (0.473)	-0.049*** (0.033)
<i>FOWN</i>	-0.0005** (0.011)	-0.0005** (0.011)	-0.0005** (0.022)	-0.0004** (0.057)
<i>DUMC·FOWN</i>			-0.0004 (0.632)	
サンプル数	135	135	135	135
<i>R</i> ²	0.759	0.759	0.759	0.766

(注1) 括弧内の数値は p-値を示す。

(注2) *, **, *** はそれぞれ 10%、5%、1%の有意水準を示す。

市場環境が銀行の収益率に与える影響を見ると、ハーフィンダール指数の係数はプラスであり、市場集中度が高まるほど収益率が上昇している。市場集中度と得収益率との相関関係は「効率性仮説」と一致しており、(表3-1)の市場集中度と営業経費率との相関関係と整合的である。アジア危機ダミーと危機後の金融改革ダミーの係数をみると、いずれも統計的には有意な水準を満たしておらず、その影響は明確ではない。

外国銀行の進出が与える影響について見ると、推計式の選び方によって変化はあるものの、ほぼ一定の傾向が見て取れる。外資出資比率の係数はマイナスの符号を持ち、その統計的な有意性も比較的高い。外国銀行の経営への影響力が高まると収益率が低下するという関係が見られており、これまでの研究とは異なる結果となっている。この傾向は、アジア危機の影響や危機後の金融改革による経済環境の変化を考慮したダミー変数を回帰式に挿入しても、基本的には変化しない。

④ 預貸金利スプレッド関数の推計結果

推計結果は(表3-3)に纏められている。まず始めに銀行の費用項目に当る非金利収

入資産比率、非金利費用比率、および営業経費率の係数値をみると、その符号はプラスであり妥当なものとなっている。ただし営業費用比率については、係数の有意性は統計的に十分ではなく、その影響は確定的とはいえない。また金利費用比率の係数の符号はマイナスであり、資金調達コストの上昇は部分的にしか貸出金利に転嫁されていない。また、金利スプレッドに対する銀行の相対的な規模の影響をみると、その係数値はプラスの符号となっており、規模の大きな銀行ほどより厚いスプレッドを確保していることが分かる。全体的に見て金利スプレッド関数は概ね妥当な関数だと判断できよう。

(表3-3) 預貸金利スプレッドの推計結果

	(1)	(2)	(3)
<i>NIA</i>	0.560*** (0)	0.556*** (0.001)	0.622*** (0)
<i>FND</i>	-0.018* (0.089)	-0.018* (0.098)	-0.020* (0.087)
<i>OE</i>	0.040 (0.474)	0.039 (0.487)	0.022 (0.714)
<i>RSZ</i>	0.094** (0.023)	0.1** (0.018)	0.099** (0.020)
<i>INF</i>	-0.003** (0)	-0.002** (0.005)	0.0006 (0.618)
<i>GDP</i>	-0.0090** (0.016)	0.0007 (0.129)	0.0005 (0.449)
<i>RR</i>	2.973*** (0)	2.193*** (0)	2.890*** (0)
<i>CRISIS</i>	0.013*** (0)	0.013*** (0)	-0.014 (0.214)
<i>DUMC</i>			0.016** (0.043)
<i>FOWN</i>	0.0001** (0.013)	0.0001** (0.008)	0.0001** (0.039)
<i>DUMC・FOWN</i>		-0.0002 (0.381)	
サンプル数	135	135	135
<i>R</i> ²	0.504	0.497	0.468

(注1) 括弧内の数値は p-値を示す。

(注2) *, **, *** はそれぞれ 10%、5%、1%の有意水準を示す。

次にマクロ経済情勢が営業経費に与えた影響をみると、インフレ率や経済成長率の係数は、符号が確定的ではなく、有意水準もばらつきが大きい。一方、預金準備率の係数は、予想されるように符号がプラスであり統計的有意性も高く、その影響は明確である。アジア危機の影響とアジア危機を契機とした金融改革ダミーの係数は、両者とも概ねプラスで統計的にも有意性が高く、銀行の金利スプレッドを高くする影響があったと言えよう。

外国銀行の進出が与える影響について見ると、推計式の選び方によって変化はあるものの、外資出資比率の係数はプラスの符号を持ちその統計的な有意性も高い。この傾向は、アジア危機の

影響や危機後の金融改革による経済環境の変化を考慮したダミー変数を回帰式に挿入しても、基本的には変化しない。外国資本による地場銀行経営への影響力が高まると、金利スプレッドは拡大する傾向が観察されており、これまでの研究とは逆の結果となっている。

(4) 外国銀行参入の効果について

以上の観察結果から、暫定的な結論を以下の様に纏めることができよう。第1に、タイでは外国銀行の地場銀行経営への参加は営業経費を増加させる傾向があった。同時に外国銀行の地場銀行への経営参加は、少なくとも現在までのところ、収益率を低下させるように作用している。第5節のアンケート調査でも、外国資本の経営参加が行われた銀行では、経営システムの近代化や新商品導入が行われており、そのための支出が増加が短期的には収益率を低下させることが考えられる。一方、外国資本の経営参加は、銀行の預貸金利スプレッドを拡大する傾向が観察された。このことは、外国資本の参加によって従来にない商品や近代的な経営手法が導入されたことにより、より収益性の高い資産運用が可能となったためと解釈することが可能である。アンケート調査でも、外国資本の参加した銀行では他の地場銀行よりも積極的に新商品を導入し、より収益性に着目して経営方針が転換されたという結果が出ている。推計結果はこれと整合的に解釈することができるであろう。

第2に、アジア危機後に外国銀行の進出が市場構造の変化を通じて間接的に地場銀行に与えている影響も見落とせない。本節の推計結果によれば、タイの銀行市場における市場集中度と銀行のパフォーマンスとの関係には「効率性仮説」が概ね妥当している。アジア危機後にタイでは外国銀行の進出が大幅に進んだが、同時に市場集中度が高まった。効率性仮説がタイで妥当すると仮定するならば、このことは次の様に解釈することが可能である。即ち、外国銀行の進出が市場競争を高め、それが誘因となって地場銀行の経営効率が改善を促された。この結果、銀行間に経営効率の高い銀行が市場を拡大し銀行市場集中度がより高まったと考えられる。

第3に、アジア危機後にタイでは外国銀行の進出が大幅に拡大したが、同時に大規模な金融改革が実施され銀行を取り巻く市場環境は大きく変化した。このような環境の変化は、外国資本による直接的な経営参加の影響や、市場集中度の変化による影響とは別に、地場銀行経営にある程度の影響を与えていると思われる。しかしながら、本節の推計結果によれば、危機後の市場環境の変化を代理する金融改革ダミーの係数は確定的な傾向を示していない。このことは、アジア危機後の制度改革の影響を無視しては行けないが、逆に市場構造の変化や外国銀行進出の効果を凌駕する程の大きな影響があったと過大評価することも正しくないことを示唆しているといえよう。

4. フィリピンと比較したタイの特徴

(1)ヒアリング調査の比較

外国銀行の参入による地場銀行経営の影響について、フィリピンでは Hapitan[2001]によって本稿と同内容のアンケート調査が行われている。その分析結果によると、フィリピン銀行市場は外国銀行のプレゼンスの増加に伴って競争的になった。競争が特に厳しくなったのはホールセール市場であり、外国銀行が地場銀行の顧客に浸透を高めていった。さらに、一部の外国銀行はミドルマーケットにも進出をしつつある。一方、大規模多国籍企業へのサービスは外国銀行(特に母国銀行)が優越しており、地場銀行が関与できる余地は限定的である。

次に、地場銀行の収益への影響について、外国銀行の進出によって地場銀行の利潤は大幅に減少したと地場銀行は自己評価している。これは特にホールセール市場における預貸金利スプレッドの縮小による部分が多い。一方、外国銀行は、タイや中国など近隣地域からの進出を除いて、高い収益率(ROEで測定)を確保している。その理由として外国銀行が収益性を重視して資本金の規模拡大を抑制していることと、地場銀行と比較して不稼動債権の比率が低いことが指摘されている。

第3に新商品・新技術の導入については、外国銀行の進出が、金融サービスの多様化、金融活動の拡大、そして新しい技術・経営手法の導入、といった効果をもたらしていないと地場銀行は考えている。外国銀行はすでに高収益率を享受しているため、先行投資を避ける傾向がある。むしろ、殆どの新商品は地場銀行によって市場に導入されているとしている。

第4に、経営方針の変化については、地場銀行の外国銀行進出に対する反応は、中核となる市場戦略の変更であり、根本的な経営戦略の変化を伴うものではないとされている。外国銀行は限定的な支店網しか持っておらず、獲得できる顧客市場は限られている。このため、地場銀行は、従来の経営戦略は維持したまま、外国銀行との競争を行うことが可能である。経営変化は、ミドルマーケットやリテール市場への重視や、そのための広告・小型店舗への投資といったレベルの物である。

筆者の行ったヒアリング調査と Hapitan[2001]によるフィリピンの分析結果を比較してみると、両国に共通の特徴として、外国銀行進出によってホールセール市場を中心とした市場競争が厳しくなっていること、同時に地場銀行がよりリテール市場を重視するようになり、そのための広告や店舗拡大に努力していることを挙げるができる。一方、両者の相違点としては、タイでは外銀が主導して新商品の導入が進み、銀行経営のリストラも外国銀行の影響が大きいなど、概して外国銀行によるリーダーシップがフィリピンよりも強いことが指摘できよう。また、タイでは外資買収銀行だけでなく一部の地場銀行でも大幅な経営方針の転換が図られており、フィリピンと比較してより本格的な銀行経営戦略の見直しが行われていることも注目される。

このような違いが生じた背景としては、フィリピンと比較してタイでは地場銀行の市場環境がより

根本的に変化したため、タイの地場銀行が経営の近代化と戦略の見直しをより根本的に取り組まなければならない状況にあることを反映していると思われる。その背景としては、フィリピンでは外国銀行のリテール部門への浸透は未だ限定的であり地場銀行が根本的な経営見直しを迫られる状況になっていないのに対して、タイでは地場銀行買収により相当大きな店舗を持った外資買収銀行が誕生し、外国銀行が本格的にリテール市場にも浸透してきていることが挙げられる。また、タイではアジア危機後に債券市場が急拡大し、企業の資金調達を巡って債券市場と銀行との競争も厳しくなったことも、銀行の対応を真剣なものとする要因となっていると思われる。更に、タイでは地場銀行への外国資本の参加が拡大し、かつてのファミリー支配が有力銀行で大幅に弱まったことも、この銀行行動の変化に影響を与えているであろう。一方、フィリピンでは債権市場は未熟な段階であり銀行との競合関係は微弱であり、アジア危機後も依然として特定ファミリーによる銀行支配が継続しているからである。

(2) 計量分析結果の比較

Unite and Sullivan [2003]は、1990年から1998年までのフィリピンの地場商業銀行のデータを利用した回帰分析によって、地場銀行の経営に外国銀行の参入がどんな影響を与えるのか検討した。それによると次の特徴が観察された。(1) 外国銀行の進出による地場銀行の利鞘への影響は、地場銀行がビジネスグループに属しているかどうかによって異なっていた。これは、ビジネスグループに属する銀行の場合は外国銀行と顧客層が重なっているため外国銀行との競争が厳しくなったのに対して、ビジネスグループに属さない比較的規模の小さい地場銀行の場合は競合関係が弱かったことを示唆している。(2) 外国銀行の進出によって地場銀行の営業費用は縮小したが、ビジネスグループに属している地場銀行では縮小幅が小さかった。これは、ビジネスグループに属する銀行は経営基盤が安定しており、経費の削減する意欲がそれ程強く働かないことを示している。(3) 非金利収入は外国銀行の進出によって低下した。特にビジネスグループに属さない地場銀行の場合、その傾向が顕著であった。これは、投資銀行業務を巡る外国銀行の競争の結果、グループ企業という安定した顧客を持たない銀行が、外国銀行にビジネスチャンスを奪われる結果となったためと考えられる。(4) 外国銀行が進出しても地場銀行の利潤は特に低下しなかった。これは、グループに属する地場銀行の場合は、非金利収入の維持と営業経費の削減とで利鞘の縮小の影響を埋め合わせることが出来たためである。一方、グループに属さない地場銀行では、利鞘の縮小と非金利収入の減少の影響を、専ら営業経費の削減に努めることで埋め合わせることが出来たためと考えられる。(5) 外国銀行の進出によって地場銀行の貸出債権のリスクは高まった。このことについては、地場銀行の経営がより保守的になったことと海外からの投資家のモニタリングが厳しくなったことに対応したものであるとしている。

本稿のタイの回帰分析結果とフィリピンの研究結果と比較すると、両国とも外資比率が上昇する

と営業費用比率が増加し収益率が低下するという点で共通した傾向がみられている。タイもフィリピンも、外国銀行の進出によって市場が競争的になり、地場銀行が新たな事態に対処するため、経営近代化と新顧客の開拓、新商品の導入に向かっている。このような行動は、短期的には営業費用を上昇させ利潤を低下させる作用を持つと考えられ、両国の計量分析結果はこの様な共通の要素を反映したものと言えよう(Barajas et al. [2001])。一方、外国銀行のプレゼンスの増加が金利スプレッドに与える影響については両国で異なっており、タイでは外資比率の増加が金利スプレッドを拡大する傾向が認められたが、フィリピンでは外国銀行数が増加すると競合関係にある銀行でスプレッドの低下が観察された。タイで金利スプレッドが上昇したことについては、タイでは外資がより積極的に新商品の導入は経営近代化に取り組んでおり、その成果が銀行の収益率をt区高めていると解釈することができるかもしれない。一方、フィリピンでは外国銀行は新商品の導入などに消極的であるといわれ、市場競争の激化は単純に利鞘を縮小させるように作用したと考えることができるかもしれない。

5. おわりに

アジア地域は、東欧諸国とラ米諸国と比較して従来は外国銀行のプレゼンスが限定的であったが、アジア危機を契機とした各国の金融改革の流れのなかで、外国銀行の進出が本格化してきた。しかしながら、今日までアジア地域における外国銀行進出効果についての本格的な研究は依然として限定的である。本研究ではアジア危機後に外国銀行の進出が進んだタイを取り上げて、外国銀行進出が地場銀行部門に与えた影響について、現地調査によるヒアリング結果を分析するとともに、それを踏まえて計量分析を行った。

我々の推計結果によれば、タイでは外資比率の上昇は営業費用比率を高め収益率を低下させる効果が計測された。これらの効果は、中欧諸国やラテンアメリカ諸国における外国銀行進出効果の実証研究とは一致しない面もあるが、Unite et al.によるフィリピンの研究結果とは共通している。これは、両国とも計測時点での外交銀行の進出が比較的新しく、地場銀行による経営近代化、新顧客開拓、新商品導入などの経営努力が短期的には営業費用を上昇させ利潤を低下させたことを反映したものと言えよう。一方、タイでは外国銀行進出は金利スプレッドをむしろ拡大する効果が計測されたが、この効果についてはフィリピンはむしろ逆になった。この点は、タイでは外資が積極的に新商品導入や経営近代化に努力し、収益性の高い商品を提供していることを反映していると解釈することも可能であろう。

タイに関する我々の分析は改善の余地が多く残されている。Unite et al.では、地場銀行を財閥系銀行と独立系に分け、この属性の違いが外国銀行進出によって受ける影響に差をもたらしていることを明らかにした。また、銀行の収益を従来の貸出業務に基く金利収入と、新サービスを活用

した手数料収入とに分け、それぞれに外国銀行進出が与える影響の違いを検討している。これらの問題は本稿の推計作業では扱われておらず、将来の重要な検討課題である。

また、本稿での計量分析で利用した推計式は、費用関数、利潤関数、金利スプレッド関数を単純化した誘導形である。途上国を対象とした先行研究では、本稿と同様の単純な推計式が利用するのが一般的であるが、推計結果の解釈に曖昧な点が残される理由となっている。より厳密な分析を加えるためには、先進国を対象とした同種の研究と同様に、経済学的に見て厳密な関数形を用いて計量分析を行う必要がある。先進国と比較して新興市場経済ではデータの制約など困難な問題が残されているが、この点も将来の重要課題であろう。

参考文献

- Barajas, Adolfo, Roberto Steiner, and Natalia Salazar [2001] The impact of Liberalization and Foreign Investment in Colombia's Financial Sector, *Journal of Development Economics*.
- Barajas, A., R. Steiner, and N. Salazar [2000] "Foreign Investment in Colombia's Financial Sector," in Claessens, S. and Marion Jansen ed [2000].
- Bhattacharaya, A., C.A.Knox Lovell, and P.Sahay [1997] "The Impact of Liberalization on the Productive Efficiency of Indian Commercial Banks," *European Journal of Operational Research*, 98, pp332-345
- Chantapong, Saovanee [2001] "What Happened to the Banking Sector in the Aftermath of Financial Crisis: the Case of Thailand," mimeo.
- [2003] "Comparative Study of Domestic and Foreign Bank Performance in Thailand: The Regression Analysis," mimeo.
- Clarke, George, Rovert Cull, Maria Soledad Martinez Peria, and Susana M. Sanchez [2001] Foreign Bank Entry: Experience, Implications for Developing Countries, and Agenda for Further Research, *IMF Working Paper*.
- Claessens, S., A. Demirguc-Kunt, and H. Huizinga [2001] "How does Foreign Entry Affect the Domestic Banking Market?" *Journal of Banking and Finance*, Vol.25, pp891-911
- Claessens, Stijn and Marion Jansen ed. [2000], *The Internationalization of Financial Services: Issues and Lessons for Developing Countries*, Boston: Kluwer Academic Press.
- Denizer, C. [1999] "Foreign Entry in Turkey's Banking Sector, 1980-1997, in Claessens, S. and Marion Jansen ed., *The Internationalization of Financial Services: Issues and Lessons for Developing Countries*, Boston: Kluwer Academic Press.
- Greenwald, Bruce C., Alec Levinson, and Joseph E. Stiglitz [1993] "Capital Market Imperfections and Regional Economic Development, in Giovannini, Alberto ed. *Finance and Development: Issues and Experience*, Cambridge: Cambridge University Press, pp.65-98.
- Intarachote, Thida [2002] "The Performance of Thai Banks, 1997-2001," *TDRI Quarterly Review*, Vol.17, No.3, pp16-24
- Jayarathne, Jith and John Wolken [1999] "Banking Consolidation and Small Firm Finance: Discussion of how important are small banks to small business lending? New Evidence from a Survey of Small Firms," *Journal of Banking and Finance*, 23
- Levine, Ross [1996] "Foreign Banks, Financial Development, and Economic Growth," in Barfield, Claude E. ed., *International Financial Markets: Harmonization versus Competition*, Washington D.C.: AEI Press, pp.224-255.
- Litan, Robert E., Paul Masson, and Michael Pomerleano ed. [2001] *Open Doors: Foreign Participation in Financial Systems in Developing Countries*, Washington, D.C.: Brookings Institution Press.

- Lindgren, Carl-Johan, Gillian Garcia, and Matthew Saal [1996] *Bank Soundness and Macroeconomic Policy*, Washington DC: International Monetary Fund.
- Loyd-Williams, D. M., Phil Molyneux, and John Thornton [1994] “Market structure and performance in Spanish banking,” *Journal of Banking and Finance*, 18, pp433-443
- Mathieson, Donald and Jorge Roldos [2001], “Foreign Banks in Emerging Markets,” in Litan et al. ed. [2001], pp15-58
- Montgomery, Heather [2003] “The Role of Foreign Banks in Post-Crisis Asia: The Importance of Method of Entry,” *ADB Institute Research Paper*, 51
- Okuda, Hidenobu and Suvadee Rungsomboon [2004] “The Effects of Foreign Bank Entry on the Thai Banking Market: Estimation Analysis over the Period of 1990-2002,” the paper to be presented at the convention of Japan Society of Monetary Economics at Aichi University on September 13, 2004.
- Petersen, Mitchell A. and Raghuram G. Rajan [1995] “The Effect of Credit Market Competition on Lending Relationships,” *The Quarterly Journal of Economics*, Vol.110, Issue 2, pp.407-443
- Schargrodsky, Ernesto and Federico Sturzenegger [2000] “Banking regulation and competition with product differentiation,” *Journal of Development Economics*, Vol.63, pp.85-111
- Stiglitz, Joseph E. and A.M. Weiss [1981] “Credit Rationing in Markets With Imperfect Information,” *American Economic Review* Vol.71, pp.393-410
- Terrel, H. [1986] “The Role of Foreign Banks in Domestic Banking Markets,” in H. Cheng ed., *Financial Policy and Reform in Pacific-Rim Countries*, Lexington: Lexington Books.
- Unite, Angelo A. and Michael J. Sullivan [2003] “The Impact of Liberalization of Foreign Bank Entry on the Philippine Domestic Banking Market,” *Journal of Banking and Finance*
- Weller, Christian E. and Mark J. Scher [1999] “Multinational Banks and Development Finance,” *ZEI Working Paper*, Center for European Integration Studies.
- World Bank [2001] *Finance for Growth*, Oxford University Press
- 奥田英信[2004]「外国銀行の進出と途上国の経済発展—アジア研究に向けた論点整理の試み—」国宗浩三・久保公ニ編『金融グローバル化と途上国』アジア経済研究所, pp.137-168
- 筒井義郎[2000]「銀行業の産業組織」筒井義郎編『金融分析の最先端』東洋経済新報社 pp69-102

付録1.

Questionnaires¹⁵

COMPETITIVE ENVIRONMENT

- Q1.** Describe the overall competitive environment against foreign/domestic banks before and after the Asian crisis and the following financial reforms.
- 1) Highly competitive
 - 2) Very competitive
 - 3) Competitive
 - 4) Little competitive
 - 5) No competitive
 - 6) Complementary
- Q2.** In which area of operations is the impact of the competition against foreign/domestic banks the most significant?
- Q3.** Which product/s and/or service/s has/have been significantly affected (in terms of a reduction of market share or revenues) by the competition against foreign/domestic banks?
- 1) Highly significant
 - 2) Very significant
 - 3) Fairly significant
 - 4) Not significant
- Q4.** Which of the following other factors were most significantly affected by the competition against foreign/domestic banks?
- Q5.** How much in terms of potential business revenues have been lost as a result of the competition against foreign/domestic banks?
- Q6.** In meeting this competition, which of the following should be done by your bank? Indicate the time frame (Immediately, Having been addressed, Not needed) as well.

OTHER RESPONSES TO THE COMPETITIVE ENVIRONMENT

- Q7.** Describe the nature of the “no competitive impact” response in **Q2**.
- Q8.** Notwithstanding that there is no competitive impact in your respective operations, are there preparations being made by your bank regarding the intensifying competition against foreign/domestic banks?
- Q9.** If yes, which of the following are being undertaken by your bank? What time horizon (Immediately, Within one year, After one year) is involved? (Please answer each item).
- Q10.** What would enable your bank to change its position on the present “no competitive impact” perception on the financial environments?

GENERAL ASSESMENT OF LIBERALIZATION

- Q11.** Would you say that the current number of foreign banks was satisfactory for developing the efficient banking sector?
- Q12.** Would you say that the new entry of foreign banks has been satisfactory in the developing the efficient banking sector?
- Q13.** What would make the entry of foreign banks more desirable?
- Q14.** All things being equal, would you favor a merger with a foreign bank?

¹⁵ 質問内容は “Sample Survey” in Appendix of Rene B. Hapitan (2001) “Reactions to the Entry of Foreign Banks in the Philippines: A Critical Study of Selected Local Bankas,” mimeo.と基本的に同じである。

付録 2.

(補表 1) 地場銀行による市場競争度の評価 (回答数)

		主要な競争相手は誰か											
		総合的な評価		外国銀行支店		外資買収行		地場銀行		国有化銀行		ノン・バンク	
		(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)
ホールセール市場	H	4	2	0	2	1	2	4	2	2	0	1	0
	C	2	1	1	0	2	1	1	0	0	0	0	1
	L	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
貸出業務	HS	3	2	0	2	0	2	2	2	2	0	1	0
	VS	3	0	1	0	2	1	3	0	0	0	0	0
	FS	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0
	NS	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2
預金業務	HS	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
	VS	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	NS	5	2	4	2	4	2	4	2	3	2	0	1
外為業務	HS	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	VS	3	0	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0
	FS	1	2	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0
	NS	1	0	1	0	1	0	1	2	1	2	0	2
信託業務	HS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	NS	6	2	4	2	4	2	4	2	1	1	0	0
投資銀行業務	HS	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0
	VS	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0
	FS	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0
	NS	3	1	2	1	2	1	2	1	1	1	0	0
短期金融市場	HS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FS	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	NS	4	3	3	3	3	3	3	3	1	2	0	1
リテール市場	H	6	1	0	0	4	1	5	1	1	0	0	0
	C	0	1	2	1	1	1	0	1	1	0	0	0
	L	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	N	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
貸出業務	HS	4	1	0	0	3	1	3	1	1	0	0	0
	VS	2	1	0	1	2	2	2	2	1	0	0	0
	FS	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	NS	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
預金業務	HS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VS	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FS	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
	NS	5	2	5	3	5	2	5	2	3	2	0	0
外為業務	HS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	FS	3	1	2	0	2	1	2	0	1	0	0	0
	NS	3	2	3	3	3	2	3	3	1	2	0	0

信託業務	HS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	VS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	FS	2,	0	1,	0	2,	0	2,	0	1,	0	0,	0
	NS	4,	3	4,	3	3,	3	3,	3	1,	2	0,	0
投資銀行業務	HS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	VS	0,	1	0,	0	0,	1	0,	1	0,	0	0,	0
	FS	2,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	NS	5,	2	5,	3	5,	2	5,	2	2,	2	0,	0
短期金融市場	HS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	VS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	FS	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0	0,	0
	NS	4,	3	4,	3	4,	3	4,	3	1,	2	0,	0

(注) (1)Highly competitive=HC, Competitive=C, Little competitive=LC, No competitive=NC.

(2)Highly significant=HS, Very significant=VS, Fairly significant=FS, Not significant=NS. (3)

(a)地場銀行の回答数, (b)外資買収銀行の回答数.